

## 自然や生き物にやさしい農業を志して有機栽培に挑戦！

## 高山農園(新十津川町)



## 【組織等の概要】

- 代表者 : 高山 裕将(たかやま ひろまさ)
- 就農年 : 平成25年
- 品目 : 水稲、大豆、小豆
- 経営面積: 20.3ha(水稲16.1ha、大豆4.1ha、小豆0.1ha)  
うち有機栽培約6ha(水稲3.1ha、大豆2.6ha、小豆0.1ha)  
有機転換中約1ha、慣行栽培約13ha
- SNS : <https://www.instagram.com/takayama.rice/>

## 【取組の経緯と概要】

- ◆ 大学を卒業後、札幌の環境調査関係のコンサル会社で働いていたが、平成25年に父親の体調不良を機に実家(新十津川町)の農業経営を継承。
- ◆ 就農するまで環境調査関係の業務に携わっていたこともあり、生き物や自然を大切にする有機栽培に取り組むことを決意。
- ◆ 有機栽培の中でも有機質肥料等を使わない「自然栽培」に挑戦することとし、実践者から話を聞きながら勉強。地力が低下する3年目に、地力回復のために大豆を栽培する等、毎年色々な栽培方法を試しながら、少しずつ有機栽培の取り組み面積を拡大。
- ◆ 平成29年に有機JAS認証を取得。
- ◆ 令和5年に近隣の精米会社及び酒造会社と協同し、自身が生産した酒米「彗星」で醸造した有機日本酒が誕生。

## 【取組の成果】

- 慣行栽培に比べ、圃場にいる生物が多様になったと感じた。初めて蛍が飛んでいるのを見た時は嬉しかった。
- 慣行栽培に比べて収量が半減することもあるが、有機質肥料や堆肥を投入しないことで資材や散布作業のコストがかからず、商品に付加価値もあることから、経営状況は慣行栽培とあまり変わらない。
- アレルギーや環境への関心が高い消費者から有機農産物のニーズがあり、有機米粉を町内にあるグルテンフリーのパンを製造する菓子店に販売し、地域振興にもつながっている。
- 有機農業の勉強会に参加した際、全道の農業者とのネットワークが生まれ、意見交換をするなど切磋琢磨しながら日々成長している。町内でも、若手農業者を中心に有機農業推進協議会を設立し、有機農業の取組が広がってきている。

## 【今後の展望】

- 他の農業者に有機農業の良さを伝えていくことで、有機農業を選択肢の一つとして選んでもらえるようにしたい。
- 省力化技術やスマート農業技術の開発が進んできており、面積が大きくても有機農業に取り組むことができる営農スタイルを確立していきたい。



●有機圃場の水稲



●有機日本酒